

4 共生・協働のむらづくり活性化事業

『集落連携によるイベントで交流人口の拡大』

吉田校区公民館運営審議会（鹿児島市）

協働団体：NPO法人エコ・リンク・アソシエーション

背

景

吉田校区は、鹿児島市北部に位置する水田地帯であり、地域の中央を流れる思川の本支流沿いに16集落が点在している。

農業面では、飯米用の水稻を主体に施設栽培の促成キュウリやニガウリ栽培にも取り組んでおり、3戸の認定農業者と兼業農家が地域農業を支えている。

少子高齢化が進む中、校区内にある小中学校と連携し、子どもから高齢者など地域みんなで参加する「川遊び大会」や「十五夜祭り」などを行っているほか、平成25年度からは、美しい農村環境づくりに向けて思川沿いに彼岸花を植える活動を始めている。

校区内にはいくつかの石碑や「松尾城跡」などの史跡があるが、これらの地域資源が地域内外にあまり知られていない状況にある。

このような中、吉田校区公民館運営審議会を中心に、イベントなどを通じて地区の活性化に取り組んでいるが、単発・一過性の開催になりがちであった。

このため、豊かな自然・伝統文化など吉田校区ならではの地域資源を再認識し、それらを地域の持続的な活性化に生かすため、共生・協働のむらづくり活性化事業に取り組んだ。

活 動 内 容

①地域資源の発掘活動

地域住民と中学生が地域の宝探しを行う「吉田あるもの探し」を実施し、地域の農産物や景色、料理などの地域資源を発掘し、それらを「絵地図」として整理した。



地域資源を発掘し絵地図を作成

②地域ぐるみの交流イベントの開催

8月の「川遊び大会」、8月の「夏のふるさとコンサートin吉田」、9月の「十五夜祭り」など、子どもから高齢者が参加する地域ぐるみのイベントを開催するとともに、吉田校区鬼火焚きめぐり実行委員会の結成などイベントが継続できる体制づくりに取り組んだ。

③「鬼火焚き巡り」イベントの開催

吉田校区では正月7日前後にかけて集落ごとに鬼火焚きをする風習があり、ほとんどの集落が地域の中央を流れる思川沿いで行っている。

この鬼火焚きを地域のイベントにしようと話し合いを重ね、平成27年1月から開催期日を統一し、地域住民はもとより、地域外の人も参加した鬼火焚き巡りを実施している。

地域外からの来場者は、平成27年は約500人、平成28年は約1,000人と約2倍に増え、正月明けの吉田校区に賑わいをもたらしている。

特に、各集落の鬼火焚きを巡る道路等を飾る灯籠の制作に当たっては、校区内の小中学生とその保護者の協力ももらい、イベントに彩りを加えることができた。

校区内で伝承されてきた鬼火焚きを見るため、地域外からわざわざ足を運ぶ来場者の存在は、地域住民の誇りや自信の醸成につながっている。

校区の鬼火焚き巡りは、地域全体で取り組む新たなイベントとして位置づけ、地域をPRすることにより、交流人口が増加し、飲食店等の売上増につながるなど、地域経済の活性化を図ることができた。



たくさんの来場者で賑わった鬼火焚き

今後の展望

鹿児島市の外周部に当たる吉田校区は、今後も少子・高齢化による人口減少が懸念されており、地域の交流人口を増加させる取組が重要である。

今後は、「鬼火焚き」の燃焼時間を延長し、周辺を彩る灯籠や松明などの装飾を増やすなど、点から線、線から面へと広がりのあるイベントにする計画である。

また、平成28年度からは吉田小学校跡地を活用して地域文化のPRの場となるイベントも企画していきたい。

さらに、地域特産物を開発し、イベントで販売するなど、地域内で経済が循環するシステムを作っていきたい。

これらの取組により「地域資源を活用した地域経済の活性化」、「交流人口の拡大と都市農村交流の促進」につながることを期待している。

リーダーの感想

吉田校区公民館運営審議会
委員長 赤松 則夫 氏



今回の活動を通じて、吉田校区を訪れる人が徐々に増加していると感じています。

当運営審議会の役員を中心に、今後も地区住民や小中学校への活動の説明や参加を積極的に呼びかけていきたいと考えています。

運営面とともに、資金面も大変ですが、補助金に頼らない新しい財源確保に向けて、寄付や広告、地域特産物の生産等を進め、皆さんと話し合いながら地域づくりを進めて参ります。



吉田の良さをPR

むらづくりに携わった感想

取り組み当初は、地域の衰退を真剣に考える数名の方々からスタートし、「いかに多くの賛同者を得るか」が課題であると感じた。

地域の小中学生を巻き込み“地元学”から始め、“あるもの”を探し地域内を歩いた。そこに現在では珍しくなった“鬼火焚き”があった。これまで10集落が個別開催で行われてきたものを、同日同時間に一齐に点火するというアイデア。素晴らしい。

まずは、各集落に開催日を合わせることが出来るかの相談。10集落のうち8集落が賛同。

1年目は準備期間も短かったため、まずは開催することに力を注ぎ、2年目に向け改善点や、少しでも地域にメリットのある開催を目指す。

吉田校区は素晴らしいリーダーがいらっしゃる。そのリーダーの下に集まる素晴らしい仲間も大勢いらっしゃる。とても頼もしい地域である。

今後、補助金に頼らない運営を目指し、継続できる体制づくり。そして、地域に経済効果をもたらす、企画・運営を目指したい。

SNS等の便利で費用の掛からないツールを効果的に利用し、情報発信に努め、大いに賑わう仕掛けづくりを行いたい。

イベントは手段であり、目的は地域活性化であることを念頭に取り組みたい。

NPO法人エコ・リンク・アソシエーション
代表理事 下津 公一郎

地域おこし団体の概要

- 法人名：NPO法人エコ・リンク
・アソシエーション
- 代表理事 下津 公一郎
- 所在地 南さつま市加世田本町53-6
- 連絡先 0993-53-7270
- HP <http://eco-link.jp/>
- FacebookPage <https://www.facebook.com/ecolinkassociation>
- 主な活動
 - ・自然体験教室「薩摩半島自然学校」の開催
 - ・農家民泊による修学旅行生受入事業
 - ・体験活動指導者育成
 - ・木口屋集落(地球の家)アートプロジェクト他

地区の情報

構成集落

東下, 東麓下, 東麓上, 城内北, 城内南, 表郷, 西麓, 桑之丸, 塩柚, 鶴木, 船ヶ平, 本宗, 前宗, 西中, 堤水流, 宇都谷
(16集落)

人口構成

- (1) 総人口 1,815人
(65歳以上の割合 39%)
- (2) 総世帯数 853戸
(うち農家戸数 270戸)

耕地面積：110ha

主要作物：水稲, ニガウリ, キュウリ

問い合わせ先

鹿児島市吉田農林事務所

電話番号：099(294)1217(代)

鹿児島地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：099(805)7273

『持続可能な集落運営を目指して』

久保地区むらづくり委員会（南さつま市）

協働団体：NPO法人プロジェクト南からの潮流

背

景

久保地区は、南さつま市大浦町の南部に位置し、三方を山に囲まれた中山間地域の小さな農村集落である。人口70人（36世帯）、65歳以上が半数近くと、同市の中でも過疎・高齢化が進んだ集落である。

農業生産の意欲が高く、大浦干拓など地区外の農地を借りて耕作している農家が多くいる一方で、棚田を中心とした地区内の農地は条件が厳しく、イノシシなどの鳥獣被害も相まって耕作放棄地が増える傾向にあった。

このままでは荒地が広がり農地が持つ機能が損なわれ、集落運営にも影響がでることを危惧したメンバーが話し合いをもち、平成26年に「久保地区むらづくり委員会」を発足した。

そして、南さつま市を中心にむらづくり活動支援を行っている「NPO法人プロジェクト南からの潮流」との協働により、むらおこし活動を開始した。

活

動

内

①耕作放棄地解消に向けた農地の復元

荒地解消推進部が中心となり、それぞれの機械を持ち寄り、農地の復元に取り組んだ。

復元した棚畑には比較的労力のかからない果樹を棚田には普通期水稻やソバなどの栽培に取り組んだ。

②特産品開発に向けた取組

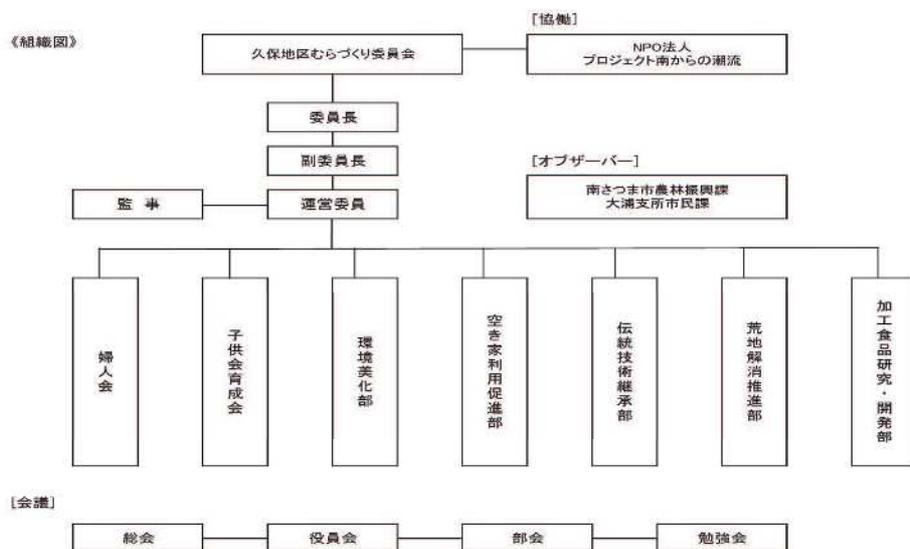
耕作放棄地を解消した畑で栽培している果実を活用し、加工食品研究開発部で試作品づくりや商品化に向けた検討を行った。

③都市住民との交流活動

復元された棚田では、体験型教育旅行の受入れの際に初蒔きなどの農業体験を行った。

④伝統文化の継承

集落に伝わる伝統行事「鬼火焚き」を集落内外にも周知し、参加者の拡大を図った。



共生・協働の状況

平成27年1月に「NPO法人プロジェクト南からの潮流」と協働して鬼火焚きを開催した。

むらづくり委員会内の青壮年部が中心となりやぐらを組み立て、婦人会がぜんざいや豚汁などをふるまうなど地域住民が総出で取り組んだところ、1年目は約50人の参加者があった。

2年目は、集客のためのPR方法など助言をもらい、大浦小学校や幼稚園などにも呼びかけ、公民館でのそば打ち体験やお楽しみ抽選会も同時に実施したところ、集落外からの参加者も格段に増え、100人を超える充実したイベントとなった。



むらづくりに向けた話し合い活動



鬼火焚きでのぜんざいのふるまい

成 果

①耕作放棄地解消と地域農業の維持
組合員の協力のもと、2年間で耕作放棄地の

約1.4haを復元した。

うち1.0haの棚田では、水稻・小麦・そばを作付けするとともに、収穫したお米を集落全員に5kgずつ配布し、棚田保全をPRした。

また、0.4haの棚畑には、永年性作物であるブルーベリーやアボカド、くるみ等の苗木を70本程度を植栽した。

倒木の除去や草払いなど、多くの時間と労力を要する作業であるが、少しずつ田畑が整備され、作物が栽培されることを通して、地域住民も地域農業の維持に向けた意識が高まった。



耕作放棄地の復元



復元した棚畑に苗木を植栽

植栽した果樹は、収穫できるまで一定期間を要するが、気候等の環境に適応できよう、生育を観察しながら管理し、これらを活用した特産品開発や地域ぐるみの6次産業化へつなげる計画である。

②都市住民との交流活動

体験型教育旅行の受入は、2戸の受入農家で年間50～60名程度を受け入れている。

苗床への種まきや稲刈り等の農業体験、集落



棚田の苗床種まき体験



集落に現存する炭焼き窯

に現存する炭焼き窯の見学，炭を使った夜のバーベキューが定番となっており，関東や関西から来た子どもたちにとって貴重な体験となっているようである。

高齢化が進む地域に子どもたちの声で賑やかさを取り戻すとともに，改めて地域の良さを認識する機会にもつながっている。

③伝統文化の継承

鬼火焚きイベントは，炊き出しやそば打ち体験など，婦人会にフル稼働してもらったことになったが，住民間の交流が図られ非常に充実したイベントとなった。

参加者が増えれば，炊き出しの準備や経費もかさむことになるが，正月明けの集落に地区内外からたくさんの来場者で賑わうことで，地域の活力にもつながると期待される。

今後も恒例行事として皆が喜んで参加できるよう知恵を出し合いながら継続していきたい。

今後の展望

復元した棚田を保全していくためにも，おいしい米づくりに取り組み，久保地区の棚田米としての販売を目指す。

また，修学旅行生の民泊受入を継続し，棚田を使った農業体験の受入等をさらに充実させていきたい。

新しく植栽した果樹等は，数年後の収穫を見込んで，ブルーベリーの果実やアボカドのオイルを使った加工品などの開発・検討を継続し，将来的には物産館等で地区の特産品として販売できるよう準備していきたい。

周辺地域では人口の減少等に伴い，伝統行事の鬼火焚きを継続する集落が減少している。

そうした中で，今後も小学校や婦人会などと連携し，地域みんなで活動を継続していくことは地域の活性化につながると考えている。

また，道路沿いのアジサイや急斜面に防草シートを張って，「ヒメイワダレソウ」を植栽するなどの環境整備も推進しており，これらの範囲を拡大し，集落の景観形成を図りたい。

さらに，空き家への移住者の受入れを進めるため，地域の魅力を発信しつつ定住に向けた呼びかけを行っていく。

リーダーの感想

久保地区むらづくり委員会
委員長 窪 修一 氏



集落運営を継続するには若者の存在が重要と感じています。

耕作放棄地を解消して換金作物を探し，主幹作物栽培の傍らで副収入を得ることができれば，農家所得も上がると思います。

植えた果樹が結実するまで4～5年かかり，その間の経費が問題でしたが，中山間直接支払

制度や棚田保全基金の活用，委員会の協力等により，今後も活動を継続していき，集落の活性化により，若者が定住できるような環境づくりを進めていきます。

NPO法人 プロジェクト南からの潮流から

むらづくりに携わった感想

久保地区は，リーダーである委員長を中心に，若手が融合しながら，非常に主体的に活動を実践されている数少ない地域です。炭焼き窯や山あいに続く石積みの棚田，ぼんかんなどの柑橘類など様々な魅力があり，委員会設立当初のむらづくり活動に向けた話し合いが大変盛り上がったことを記憶しています。

その余韻を残しつつ，集落内にある地域資源を活かした都市住民との交流や加工品の検討などについて，互いに相談・連携しながら推進してまいりました。

「久保地区むらづくり委員会」では自分たちで発案して次々と具体化されていきますので，NPO主導というよりは，相談役的な役割をさせていただいていると感じています。今後も新たな提案をしながら集落活性化に携わっていきたいと思います。

NPO法人 プロジェクト南からの潮流
理事長 田代 昌弘

地域おこし団体の概要

- 法人名 特定非営利活動法人
プロジェクト南からの潮流
- 代表者名 理事長 田代 昌弘
- 所在地 南さつま市加世田川畑2770-32
- 連絡先 TEL0993-52-7829
- HP <http://cyouryu.com/>

○設立年 2001年6月

○主な活動内容

- ・市民ふれあいギャラリー（市役所ロビー）
- ・まちづくり推進事業
長谷おしゃべりクラブ
集落活性化事業
（都市部の住民や大学生と協力した米作り体験・シイタケ栽培等）
- ・文化的活動の普及・啓発活動
- ・自然とのふれあい事業
- ・「大坂ふれあい館」物産販売事業

等々

○名称の由来

黒潮の暖かく力強い流れが豊かな幸を運んでくるように，文化や想いもまた潮のように流れて，人々の間を伝わっていくように，南さつまの地から新しい流れをつくりたい，そうした想いが込められている。

地区の情報

構成集落 久保（1集落）

人口構成

- (1) 総人口 70人
(65歳以上の割合 45.7%)
- (2) 総世帯数 36戸
(うち農家戸数 26戸)

耕地面積 32.2ha

主要作物 水稲，ぼんかん，かぼちゃ

問い合わせ先

南さつま市大浦支所市民課

電話番号：0993(62)2111(代)

南薩地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0993(52)1342

『温泉・農産物など地域資源をいかしたむらづくり』

せんだい高城温泉よか湯協議会（薩摩川内市）

協働団体：NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会

背 景

薩摩川内市北西部に位置し、日本の名湯百選のひとつ川内高城温泉がある湯田町湯之元地区は、昔ながらの湯治場の雰囲気を残した山深いのどかな農村地域であるが、近年、湯治客の減少や過疎・高齢化、後継者不足等により地域の活力が次第に失われつつあり、存続が危ぶまれていた。

また、高齢・零細農家が多く、安定した農業生産及び郷土食や加工品の供給が困難な状況にある。

このような中、平成26年7月、地元有志18名により「せんだい高城温泉よか湯協議会」を結成し、地域資源を活用してかつての賑わいを取り戻すための活動に取り組んだ。（現在の会員数20名）

活 動 内 容

① 地域活性化に向けた検討

NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会（東川隆太郎代表）、薩摩川内市商工会など地域外の支援も得て、地域活性化の検討会を毎月開催するとともに、研修会や先進地視察等を実施した。

② 地域資源の発掘と飲食店での地域食材活用

地元住民、関係機関が参加する「ふるさと再発見まちあるき」を実施し、地域資源の発掘活動を行った。

また、近隣の吉川地区と連携し、地区内にオープンした温泉食堂で地域農産物を活用し

た郷土料理を提供するなど、観光と連携した取り組みを展開した。



ふるさと再発見まちあるき

③ 地域内の環境整備

地域が一体となって、街並みへの花苗の植付けや神社、展望所等の清掃活動など環境美化に取り組んだ。

④ 地域のPR活動

地域の魅力をPRするため、マップやロゴマーク、キャッチコピー等を作成するとともに、平成27年11月には、鹿児島中央駅アミューズ広場でマップの配布やアンケート調査、抽選会を実施した。



鹿児島中央駅でのPRイベント

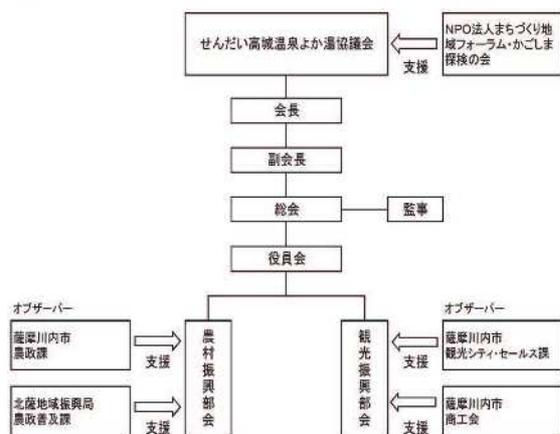
そのほか、西郷どん湯治場囲碁大会などを開催し、地域外からの来訪者に対して、マップ等を活用して地域のPRを行うとともに、地域案内ガイドの現地研修を行った。

共生・協働の状況

「せんだい高城温泉よか湯協議会」は、NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会とむらづくり活性化パートナーズ協定を締結し、地域資源の発掘・活用やPRに向けたパンフレットの作成など様々な活動を行っている。

また、同協議会には、農村振興部会と観光振興部会があり、それぞれ関係する機関が支援する体制を取っている。

【組織図】



地域内で唯一の食事処「温泉食堂」では、地元産はもとより、近隣の吉川地区と協働して吉川産の農産物も利用した料理を提供している。

さらに、西郷隆盛が狩りの途中に立ち寄り、温泉に浸かったという伝説にちなみ、鳥獣処理加工施設「いかくら阿久根」やレストランシェフと連携して、イノシシ、シカ肉を使った「西郷どん御狩場カレー」など名物料理の開発にも取り組んでいる。



「西郷どん御狩場カレー」試食会

成果

- ① 地域活性化の方向性の確立

温泉資源に加えて、地元農産物等を使用した名物料理、西郷伝説など地域資源を活用して情報発信を行うなど、地域活性化に向けて地区内で意思統一を図ることができた。
- ② 地元農畜産物の活用による地域の魅力創出

地元産はもとより、近隣の吉川地区の野菜や薩摩川内市産の黒毛和牛など農畜産物を使用した郷土料理を食事処「温泉食堂」で提供するほか、地域内に新たに民宿が2軒オープンしたことにより、集客人口の増加、交流人口の拡大が図られた。
- ③ むらづくりリーダーの育成

「せんだい高城温泉よか湯協議会」の会員が取組を通して、地域のリーダーとしての自覚を持ち、イベント企画やマスコミ等へのPR活動など、会員の能力を発揮した地域活動が展開できた。
- ④ 地域の魅力の情報発信

名物料理を開発するとともに、マップ、パンフレット、キャッチコピー、ロゴマーク、タオル等を作成し、アミユ広場や囲碁大会等

のイベントでのPR活動に活用している。

この取組をマスコミ等に広くPRした結果、テレビ、新聞等に特集されるなど効果的なPR活動が展開できた。



作成した地域PRマップ



イノシシ肉と薩摩川内市産ゴボウのカレー

今後の展望

湯田町湯之元地区には、平成28年4月から薩摩川内市地域おこし協力隊が2名配置(3年間)される予定である。

今後は、名物料理やお土産の開発・販売、6次産業化、新たなイベントの検討・実施、熊本駅や博多駅など県外でのPR活動などさらに活動の幅を広げたい。

リーダーの感想

せんだい高城温泉よか湯協議会会長

井龍 修 氏



会員には活動を進める喜びや充実感があり、今後への期待も大きい。

また、地域にも少なからず活気と明るい雰囲気生まれつつある。

過疎・高齢化や活動予算の確保など課題も多いが、今後も活動を継続することにより、都市部からの交流人口の増加など地域の賑わいを実現させたい。



マップ作成検討会

むらづくりに携わった感想

古き良き湯治場の雰囲気を保った良好な景観の地域であり、このすばらしさを発信するお手伝いがしたい、そのことで現在の雰囲気が保たれてほしいという気持ちで臨んだ。

当会が主にお手伝いしたマップづくりに留まらず、地域の皆さんが主体的に活動を様々な取り組みに発展させてくださっている。微力だが、引き続き応援していきたい。

今回の取組は、温泉地という地域資源とむらづくりが結びついた好事例になるのではと感じている。

鹿児島県内には温泉を有する地域が多く、観光地化された地域もちろんあるが、当地のように中山間地域に位置するものも少なくない。

日常的な癒しの場であるとともに交流拠点、情報発信の拠点である「温泉」と「食・農業」との連携による地域活性化の可能性に注目していただきたい。

NPO法人まちづくり地域フォーラム・
かごしま探検の会 代表 東川 隆太郎

地域おこし団体の概要

○団体名 NPO法人まちづくり地域フォーラム
・かごしま探検の会

○代表者名 東川 隆太郎

○所在地 鹿児島市名山町3番9号

○連絡先 099-227-5343

○HP <http://www.tankennokai.com>

○設立年 2001年

○設立趣旨

「地理・歴史・自然をまなび、まちづくりを考える」をキーワードに、調査研究および学習

・啓発の場を継続的に提供する。

また、そのことによって鹿児島で育まれた文化を通して地域が豊かになることを活動の主たる目的としている。

○団体のPR

見逃されたものの価値を大切にし、よりよい鹿児島のために知恵を出す活動を継続的に行っている。



ふるさと再発見まちあるき



←作成した
ロゴマーク

地区の情報

構成集落 湯之元(1集落)

人口構成

(1) 総人口 62人

(65歳以上の割合 64.5%)

(2) 総世帯数32戸(うち農家戸数13戸)

耕地面積 2.2ha

主要作物 水稻, 繁殖牛

問合せ先

薩摩川内市農政課

電話番号：0996(23)5111(代)

北薩地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0996(25)5530

『広がる上場の“わ”』

上場地区（湧水町）

協働団体：NPO法人Lかごしま

背 景

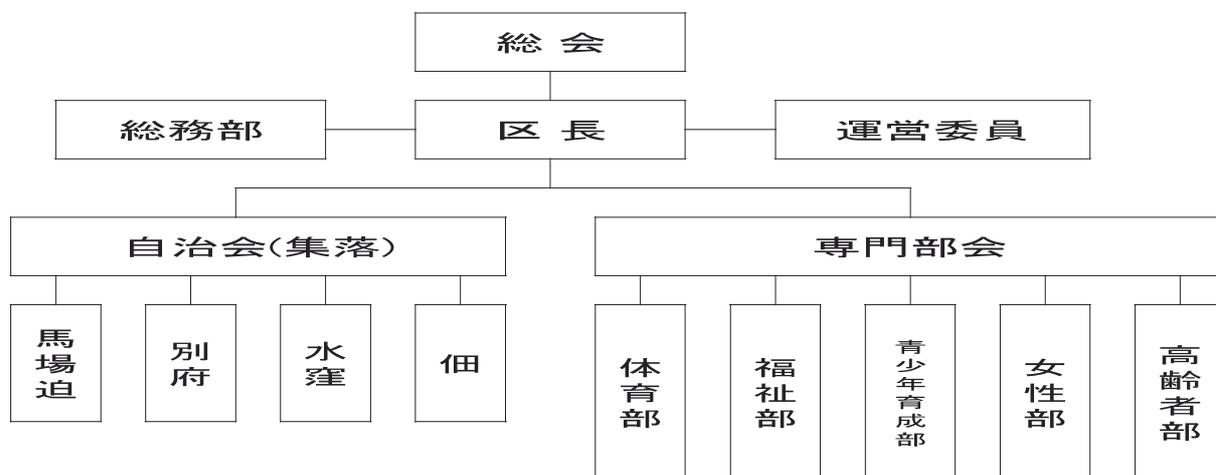
上場小学校区内4自治会からなる上場地区は、湧水町南部の高原に位置し、水田及び畑が広がる農村地域である。

この地区は、栗野岳や韓国岳、高千穂の峰を一望できるロケーションを有するなど風光明媚なことから、毎年4月に開催される湧水町高原ランニング大会のランニングコースの一部になっている。

また、豊富な水量で地域の飲用水となっている水源地「マメツケ」は、地域の水田も潤している。

上場地区は、畜産・水稲・さつまいもを主体とした農業地帯であり、特に水稲は、地区内を流れる佃疎水により生産されたお米を「湧泉栽培米」として付加価値を付け販売している。また、近年では、Iターン者4戸を含め有機野菜の栽培農家も増加傾向にあるほか、地区内に有機農産物を食材とする飲食店が開店するなど有機農業への関心も高まっている。

組織体制図



一方で、過疎・高齢化が進み、人口379人（戸数182戸）のうち65才以上が155人と4割を超え、農家の後継者不足や集落内の空き家が多く見られるなど集落機能の低下が懸念されており、地域活性化に向けた取り組みが必要であった。

活 動 内 容

地区内の歴史・文化・食材等を見つめ直し、地域活性化を目指し、次のような活動に取り組んだ。

①地域資源の発掘・活用

上場地区の史跡等地域資源を再確認するため「まち歩き」を実施し、住民・地域特産物等の上場の魅力を取りまとめた地域PRパンフレット「うわばのわ」を作成するとともに、地域マップ看板を設置した。

②地域農産物の販売・PR活動の促進

湧水町で毎年開催されている都市農村交流イベントの一つである「高原ランニング大会」で、地域農産物等を販売するとともに、地域のPR活動に取り組んだ。

③都市農村交流等による定住促進

以前から地区外からの移住受入を行っていたが、新たに上場出身の県外在住者へ小学校・地域合同運動会などの地元イベントへの参加を呼びかけた。

共生・協働の状況

NPO法人「Lかごしま」と連携し、地域資源マップ「うわばのわ」パンフレットの作成やこれを用いた地区内外への情報発信を行い交流イベント等での活用を図った。

また、上場小学校と連携した「上場地区の鬼火たき」、集落に伝わる伝統芸能「佃集落の鎌手踊り」、「水窪集落の建築踊り」、「別府集落の棒踊り」をイベントで披露するなど、子供たちとの活動を通して次の世代に伝承できるよう活動している。



地域ぐるみで伝統芸能を継承

成 果

①地域住民活動の活性化

地域資源の発掘やマップづくりを通して、地域住民自らが地域の魅力を再認識するとともに、地域内外へ地域の良さを発信することができた。

また、終戦直後、農家の貴重な現金収入源として盛んに作られていたものの、永らく途絶え

ていた「から芋水飴」を地区内の有識者の指導により、住民の共同で調理体験を行い、伝統食を復活させた。

地域PRのための特産品づくりに向けた取組が進み、上場地区の食文化の継承につながっている。



上場のPRに向けた看板を設置

②地域農産物の販売・PR活動の促進

高原ランニング大会において上場地区の農産物を販売するとともに、ランニングコース沿い



高原ランニング大会での農産物販売



地域ぐるみで菜の花の植栽を実施

に菜の花の植栽を行い美しい農村景観を形成し、上場地区のPRを行うことができた。

また、菜種油などの特産品開発へ向けた検討をすすめている。

③都市農村交流等による定住促進

上場出身の県外在住者に小学校・地区合同の運動会への参加を呼びかけ、ブラジル在住者3名、県外在住者10名が参加し、交流を深めることができた。

これらの取組により2世帯が上場地区に定住するなど人口増加につながった。



小学校運動会での交流活動

今後の展望

高齢化が進む上場地区においてイベント開催やIターン者の受け入れなどにより、上場小学校の児童数は増加傾向にある。

今後も、ランニング大会を活用して、菜の花の植栽や地域農産物の販売など交流人口の拡大を図るとともに、PR活動については、工夫を凝らしながら継続していく計画である。

特に、昔ながらの伝統的な特産品を復活させ、新たな特産品として開発するなど地域を挙げて取り組んでいく。さらに、地域外にいる地区出身者へ、地域のイベント情報等を継続して提供し、合同運動会などに帰省してもらえよう取り組みを行う。

このような取り組みを継続することで、上場地区を地域内外へ広くPRし、上場の素晴らし

い景観等を多くの人々に知ってもらうとともに、地域住民も新たな発見や文化・歴史の再確認ができ、地域の発展と「住民のわ」が広がっていくものと考えている。

リーダーの感想

上場地区

区長 今園行信氏



上場地区では、従来から地域活性化の問題解決に向けて活発なむらづくり活動を実践している地域です。

平成25年度には、町や県などの援を受け、地区役員と有志で「地域の課題と活性化に向けた取組」をテーマに検討しました。

この検討結果をもとに、平成26年度から特色ある地域資源を生かしたむらづくり活動に取り組みました。

地域資源の発掘活動として地域住民・学童・小学校の先生・保護者によるまち歩きをし「湧水源、佃疎水、史跡」の歴史を学び、改めて上場地区の認識を深めました。

これらの地域資源を整理した「うわばのわ」は、町内外のPR活動に活用しています。

また、平成27年度は、毎年4月に行われる「高原ランニング大会」のランナーをもてなそうと住民総出で菜の花を植え付けました。

これらの様々な取組で活動への参加者も増え、地域が元気を取り戻しつつあります。今後も、地区内外へ「上場のわ」が広がるよう、活動を続けていきたいと思ひます。

NPO法人Lかごしまから

むらづくりに携わった感想

地域資源を再発見、再確認し、その情報を地域内外へ発信するためにパンフレットを協働で作成しました。

作成前、地域の方が「パンフレットに載せるようなことは、この辺りはあまりないねえ」と話されていたことが印象的でした。

しかし、上場地区までの道中、車窓の景色は徐々に自然の色が濃くなっていき、その景色も、上場地区で見るもの、食すもの、体感するものは魅力あるものばかり。まさに「贅沢」。

利便性だけが求められがちな現在において、地域内どこに行ってもコンビニの看板がない風景も一つの資源だと感じられました。

地域の方々の話では、世代を問わず、暮らしの不便さは言われていましたが、若い世代が「多少の不便はあっても、子育てしやすいところ」と話されていました。

子どもたちが地域の人々の深い愛情に育まれている様子が伝わってきました。

私たちが上場地区のむらづくりに携わり「わくわく」したこと、「わっはっは！」と大声で笑ったこと、「わーっ！！」と感動したことのほんの一部を掲載し、作成したパンフレット「うわばのわ」、ぜひ手に取っていただき、上場地区での贅沢な旅を楽しんでいただきたい。

NPO法人Lかごしま

理事長 吉村 哲郎

地域おこし団体の概要

○団体名 NPO法人Lかごしま

○代表者名 吉村 哲郎

○所在地 始良市池島町20番地20

○連絡先 0995-66-6818

○HP <http://el-kagoshima.net>

○設立年 平成22年7月

○設立趣旨

市民活動へのIT活用促進を行うとともに、県内各団体の情報を集約することに努め、市民活動団体の協働の機会を作り、よって共生・協働による地域社会づくりに寄与することを目的とする。

○団体PR

地域の人々の声に耳を傾け、様々な取組に反映させることで、市民活動の充実を図り、多様な地域生活者の暮らしの安心・安全を目指して活動を行っている。

地域社会から信頼され、必要とされるNPO法人を目指し、一つひとつの取組を確実に積み上げていきたい。

地区の情報

構成集落：水窪自治会・佃自治会・別府自治会・馬場迫自治会(4自治会)

人口構成

(1) 総人口 379人

(2) 総世帯数 182戸

(65歳以上の割合 40%)

(うち農家戸数 60戸)

総耕地面積 128ha

主要作物 水稻、さつまいも、飼料作物

問い合わせ先

湧水町役場農林課

電話番号：0995(74)3111

始良・伊佐地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0995(63)8146